

〔隨意錄五〕物茂卿云、在田曰稻、刈穫曰禾、去藁曰粟、去殼曰米、米而未舂曰糲、已舂曰梁、皆一物也、而稻爲糯粟爲秬、梁爲粟中之一種、皆後世醫家之說、非古言、予謂此說粗也、不精乎古言也、詩曰、黍稷稻粱、農夫之慶、內則曰、飯黍稷稻粱、白黍黃粱、又曰、稻醴清糟、梁醴清糟、以此等經傳觀之、稻又一種名、而非唯在田之名、況論語曰、食夫稻衣夫錦、明是稻一種嘉穀、豈以在田與衣錦相對、乃言食之乎、梁又一種名、非唯舂之謂也、其粟及米之稱、則固如其說也、禾則嘉穀之總名、詩曰、十月納禾稼、黍稷重穆、可以見焉、黍稷重穆、都稱之禾稼也、春秋曰、大無麥禾、亦凡謂秋成穀爲禾也、誰非刈穫之稱、然穀種之名、義漢晉以降、諸說不一、

〔傍廂後篇〕稻穀

稻とは田に生ひ立ちあるをいふ、禾とは刈りて根なきをいふ、粟とは藁を去りたるをいふ、米とは穀を去りたるをいふ、糲とはいまだ舂かざるをいふ、梁とは既に舂きたるをいふ、武家の知行萬石千石などいへるは粟也、穀を去りて米とすれば萬石は四千石となる、千石は四百石となる、故に千石といへるは、よつ物にて即千俵なり、

〔古今和歌集十〕題しらす

秋の田のいねてふこともかけなくになにをうしとか人のかるらん

〔延喜式八〕祝詞〔祈年祭〕

御年皇神等能前爾白久皇神等能依左奉牟、奥津御年手肱爾水沫畫垂向股泥畫寄氏取作牟、奥津御年平八束穗能伊加志穗爾皇神等能依左奉者初穗波千穎八百穎爾奉置氏取閉高知取腹滿雙氏汁穎母稱辭竟奉牟、

〔祝詞考上〕五穀の中に、稻は最末に熟故に、奥といへり、譬ば同じ稻にても、晩なるを奥てといひ、又遅きことをも、萬葉におくてなるといへるが如し、